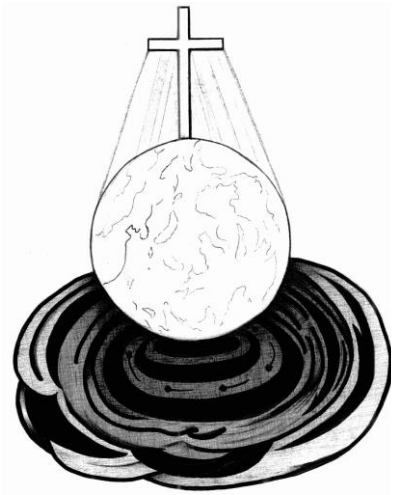
月桃（げっとう）通信 No27　2021 年９月 25 日

混沌の中に輝く小さな明り　　石原艶子



イラスト：大城旋律（孫）

今日の計り知れない闇のただ中にあって恐れずに信ずるもののために一本の松明を燃えあがらせよう。それがわずかな明りであろうとも真実の明りは、幾百万の心に宿る暗き闇を一陣の風に煽られる殻のように吹き払うことだろう。（ガンジー魂の言葉）

地は混沌であって闇が深淵の表にあり神の霊が水の面を動いていた。神は言われた「光あれ」こうして光があった。

（旧約聖書　創世記１：2～3）

映像で宇宙から見た地球の姿を見たことがあります。そこで見たのは夜も眠らない地球、熱い熱い地球の姿でした。そして明暗の隔ては、人類の格差の深刻さを語っていました。人間の果てしない欲望が生み出した夜の明りは人類滅亡の明りに見えました。そんな中に全く違う光を放つ小さな明りが地球のあちこちに点在しているのが見えました。その明りこそはガンジーが言う真実な明り、私たちの心に宿る明りです。この明りは混沌の中に輝いて人類を滅亡から救う愛の明りです。よく見るとその明りは十字架を担いつつ、人々と共に生きる愛の人が放つ明りでした。私たち一人ひとりもまた心に愛の明りを灯して、闇を吹き払う存在として生きていきましょう。

人は愛するために生まれた。愛する人生は楽しく幸せだ。愛のない人生ほど空しいものはない。（艶子）

☆アフガン消えた「オキナワ」

9.11 米テロから 20 年、あの時米軍基地が集中している沖縄では風評被害により観光客が激減して大打撃を受けました。あれから 20 年、米軍はこの八月末アフガンから撤退しました。沖縄平和賞は地上戦、米軍統治を経験した沖縄から平和を希求する心を世界に発信するのが目的でした。2002 年第一回の沖縄平和賞の受賞者はペシャワール会でした。故中村哲氏は「いろいろな賞をもらったが今回が一番嬉しい」と語られました。その賞金で 2003 年に「オキナワピースクリニック」がアフガンのダラエ・ピーチに建設されました。PMS（平和医療団・日本）の活動は医療が届かない小さな村での診療を続けていましたが、米国支援による新政権発足後の混乱により PMS オキナワピースクリニックも、たった２年で政府に委譲されてしまいました。米国を支持する日本への不満は募り治安は悪化の一途、「援助団体が米軍の武力で守られながら押し寄せるなら存在意義も薄れる」と中村哲氏は怒りをこらえ最後の医療チームが戻った時、心で泣かれたのでした。何故アフガンから平和を希求する「オキナワ」は消えてしまったのか。アメリカのアフガン戦争 20 年の結末がすべてを語っています。アフガンに必要なものは武力ではありません。2019 年 12 月に中村哲氏は凶弾に倒れたけれど、ペシャワール会は今も、現地の人々の協力を得て治水工事を進めていて、かつてオキナワピースクリニックがあったクナール州近くまで伸びているといいます。真実な明りは天国の中村哲氏と共に生き続けているのです。アメリカの対テロ戦争の死者は７千人、そして自殺者は３万人以上。武力による支配、死の商人の国、アメリカの不幸、そしてアメリカに追従して平和憲法を捨てて軍事力増強へと突き進む日本の不幸。アフガンに「オキナワピースクリニック平和の診療所」が復活する日が

来ますようにと切に祈っています。故中村哲氏が残した言葉を心に刻み、私たち一人一人の魂の言葉にしたいと思います。
◎暴力と虚偽で目先の利を守る時代は自滅しようとしている。今ほど切実に、自然と人間との関係が根底から問い直された時はなかった。決して希望なき時代ではない。大地を離れた人為の世相に欺かれず、恵みを見い出す努力が必要な時なのだ。それは生存をかけた無限のフロンティアでもある。
◎自然の恵みは見捨てられた者たちの上に姿を現す。理念や理屈ではない。人が和すとは、暴力やカネ勘定を超える理があるのだ。
◎自らを省みない技術は危険である。神に代わって人間が万能であるかのような増長、自然からの暴力的な搾取、大量消費と大量生産、――これらが自然環境の破壊や核戦争の恐怖を生み、人間の生存までも脅かしている現実は動かしがたい。

〈沖縄の悲しみ〉コロナ難民、生理の貧困

コロナ感染者数が全国一（人口 10 万人当たり）の沖縄、緊急事態宣言は長期化し、五ヵ月も続いています。県の財政を圧迫し続け 8 月には 222 億円の一時借入金が生じたとのこと。海に囲まれ、美しい島々が連なる美ら島沖縄、私たちファミリーの故郷、愛する沖縄は何故こんなに悲しいのでしょうか。どうしてコロナ禍はここまで拡大したのか。五月頃、本土からの若者達が解放感を求めて大勢やって来ました。近くの道の駅にはマスクも着けない若者達が飲食し、騒いでいる姿を何度か見て唖然としました。また暑さは年々厳しく、クーラーなしではおれません。換気が大切です。また米軍基地関係による外国との往来など、特殊な事情も原因していることでしょう。コロナ難民と言われる貧困が直撃、「生理の貧困」などという今迄聞いたこともなかった現実に衝撃を受けました。中高生から若い女性まで 100 円のお金にも困窮している貧困の現実。無料の生理用品の配布がさまざまな方法で行われています。然し、単に生理用品配布では済まされない深刻な問題と向き合わなくては根本的解決にはなりません。経済成長し豊かな日本が何故ここまで格差が進行し、貧しい若者を生み出してしまったのか。政治のあまりの貧困を嘆くだけではなく、助け合う社会を作らなくてはなりません。私の一つの提案ですが、リサイクルの布（パジャマのネル地など）を利用した布ナプキンを作ってみませんか。高齢者には尿漏れナプキンとしても便利です。使い捨て消費生活からの転換のチャンスかもしれません。私の子育て時代は紙オムツはありませんでした。沢山の布オムツを洗濯する毎日は豊かで楽しかったのは何故でしょうか。豊かさとは何なのか、現代は生理用ナプキンも紙オムツもあってこのうえなく便利です。でもこの便利さこそ貧しさの裏側なのです。思考停止の現代人、生理の貧困、ヤングケアラーなど深刻な格差社会を変えるために、軍事ではなく一人一人の命を支える愛のある政治へと変わるようにと、コロナウイルスは教えているのではないでしょうか。

‹うるま市の精神病院でのコロナクラスター›

私の家から車で 10 分位の精神病院でクラスターが発生し、71 名の方が亡くなられました。大変な衝撃を受け、言葉を失いました。胸に迫ってきたことは、あのナチスドイツによる出来事でした。あの時ある精神病院の患者がみんな連れ去られ一人も帰ってくることはありませんでした。毒ガス人体実験のため殺されたのです。その中にはパーキンソン病の人も居て、家族の元に帰ろうとしていた人たちも居たといいます。その後からユダヤ人大量虐殺が始ったのです。こうして精神障害者の命の選別が行われたのです。うるまの 71 名の方々の死は、大きくさわがれることもなく、家族には一面の安堵感さえあったことでしょう。この 71 名が健常者や若者であったなら病院は非難され大問題となったのではないでしょうか。

「夜明け前のうた――見捨てられた沖縄の精神障害者」の映画を観ました。1900 年に制定された「精神障害者監護法」に基づき自宅敷地内の小屋に監置された患者たちの人間の尊厳を奪われた悲しい姿、孤独と絶望の中で 20 年も監置されていた女性の悲しい歌が聞こえてきました。日本では 1950 年に私宅監置は禁止されましたが、米軍統治下の沖縄では 1972 年まで施行されていました。戦後日本は沖縄の精神障害者を見捨てたのです。「夜明け前のうた」の映画の中の精神障害者の姿とうるまの病院で亡くなられた 71 人の姿が私の中で重なり合い、現代の私宅監置ではないのか、過去と地続きだと思いました。今年３月、津久井やまゆり園がパラリンピックの聖火採火式の会場となることが報じられましたが、遺族の反対で中止となったといいます。45 人が殺傷された現場で、何という無神経さでしょう。こんなことを平気で計画できる神経は沖縄を見捨て、軍事力拡大へと突き進む日本という国の姿そのものです。2016 年７月 26 日の津久井やまゆり事件、彼は「障害者は不幸を生むだけ、死んだ方がよい」彼の言葉に衝撃を受けた人は多いでしょう。しかし、私たちの内なる心のどこかに、彼と同じ思いがあることに人々は気付いてしまったのです。私たちは無意識的に命の選別をしているという事実と向き合わなくてはなりません。今も昔も何にも変わっていない現実、自宅監置された精神障害者は今は精神病院に監置されていることをクラスターでの 71 人の命が教えています。命の選別、差別こそが戦争へとつながっていく戦争の根っこであることを教えてくれたのです。

☆沈む辺野古の海

７月 28 日県は最高裁判決での敗訴を受けて約４万群体のサンゴ類移植を条件付きで許可した。そして防衛局はその翌日の 29 日にサンゴ移植を強行しました。あまりの拙速強行に私は言葉を失いました。高水温期では半数以上は死滅するでしょう。辺野古は日本の海の生物多様性を存続させるために代替不可能な保全地域です。サンゴ生態系の損失は地球、人類にとっての損失です。軍事のためには許されるのですか。世界のマスコミや自然保護団体がもっと声を上げ、この事実に NO を叫んで世界に向って発信してほしいと願います。８月、抗議船に乗せてもらい海側から辺野古を見ました。かさ上げ工事は休む間なく強行され、すっかり姿を変えてしまった辺野古の海を見て怒りと悲しみに心は沈み沈黙の涙。もう元に戻すことは出来ません。後３年位で完成するかもしれません。然し、大浦湾だけは絶対に出来ないと私は確信しています。緊急事態宣言中の厳しい暑さの日々も休むことなく 10 数人の仲間達は、安和、塩川、ゲート前と抗議行動を続行していました。お一人お一人の強い決意と行動に希望の明りを感じ、敬意と感謝でいっぱいです。10 月から心も新たにコロナ禍を打ち破り、行動開始です。

☆南西諸島「防波堤に」

今日 23 日、バイデン大統領は「新たな冷戦は望まない」と言いましたが、現実は米中冷戦時代へとまっしぐら、６年以内に台湾有事の言葉が独り歩きし、一層の危機をあおり立てています。そんな中、一大ショックなニュースに戦きました。「防衛省は 2023 年度をめどに、うるま市の陸上自衛隊勝連分屯地へ沖縄本島初となる地対艦ミサイル（SSM）部隊を配備する方針を固めた」うるま市の住民なのに全くの無関心で寝耳に水のような事態に驚き、仲間たちと勝連分屯地のゲート前まで二度行って見ました。二回目の時は物々しい警備で米軍のゲート前と同じ空気、自衛隊がいよいよ軍隊としてアメリカの指示の元、軍事行動体勢を整えていることは明白な事実として分りました。勝連の分屯地は小高い丘の上、四方の海を見渡す絶景の場所、広大な土地、住民にとって最高の場所が自衛隊基地として接収されているのです。私達はこれを機に小さな市民便り（てぃーあんだ便り）の発行を始めました。無関心は加害者への道です。小さなうるまの

市民運動を一人一人のつながりの中で育てていきたいと願っています。「何も知らなかった」と言わない様に共に学び合い、声を上げていきたいと思い行動しています。

☆「土地規制法」勉強会

「総理大臣が〝国防のため〟と判断したら個人情報を調査し、提出させ国民の基本的人権を奪う権限を手に握る」これは<u>戦争準備法</u>です。

〇沖縄では基地周辺１ｋｍは広大な範囲になり私たちの生活圏、一体どうなるのでしょう。

〇マイナンバーを普及させてデジタル庁で国民の思考や行動を把握、国防のため必要だと判断すれば警察や自衛隊、地方自治体にも協力させられる。

〇日本国民は政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意しこの憲法を確定する（憲法前文より）自民党の改憲草案からはこれが削除されています。

◎今、大切なことは戦争準備法なんかではなくて、戦争を起こさないための国と国との対話、民間交流を豊かにしていくことだと思います。

◎感染症対策の備えは全くせず、保健所も減らしてしまった政府は戦争の準備だけはアメリカ追従、日米安保の下、万全にしているとは全くの国民無視、その最前線が沖縄を直撃しています。

☆水汚染こそ緊急事態宣言

「命の水を守れ」私達は抗議行動を続けています。永遠の化学物質 PFAS（有機フッ素化合物）汚染にさらされている沖縄県民の生活、健康への見えない影響はガン、白血病などへの不安を高めています。米軍は８月 26 日貯蔵していた汚染水を 64000ℓ放出しました。また未処理の汚染水すべて防衛省が引き取り焼却処分すると発表。ドラム缶 1800 本分費用は 9200 万円、すべて国民の税金から。

☆ミャンマー内戦の危機

ミャンマーは少数民族を抱えた複雑な国家です。コロナ禍で増大した深刻な貧しさが一層危機を深めています。実質的に中国がミャンマー国軍の保護者であるという現実の中で、国際社会は自国の利益を優先し、一致した軍政府への制裁も出来ません。内戦になったら地獄です。日本政府には軍事政権を助ける政策だけは止めて、人民を助ける支援策を実行してくれることを切に願いミャンマーの平和を祈ります。アフガニスタンとミャンマーに人民が安心して暮せる日常が一日も早く戻りますように祈ります。

<u>◎多くの方々の真心からのご協力を頂いていますことを心より感謝申し上げます。</u>

《お願い》<u>辺野古基金のために</u>

〇つながる力うつぐみの会（福生市在住：大野悦子）

着物リサイクルマスク　一枚 200 円　　着物リサイクル袋　500 円

マスク・布バッグ在庫あり。どうぞご注文下さい!!

〇あみの会　糸リサイクル作品（ルームシューズ・各種首元スカーフ・髪留め・コースター・帽子など）

※リサイクル着物、各種リサイクル糸求めています!!　<u>リサイクル品提供の方はあらかじめご連絡下さい。</u>

〈連絡先〉〒904-1115　うるま市石川伊波　1180-5　石原艶子　携帯：090-4471-1942

〈振込先〉ゆうちょ銀行　記号：12260　番号：12650271　イシハラツヤコ